

チョウチンゴケ科

タチチョウチンゴケ

Orthomnion dilatatum (Mitt.) P.C. Chen

兵庫県ランク… A

環境省ランク… CR

■ 県内分布

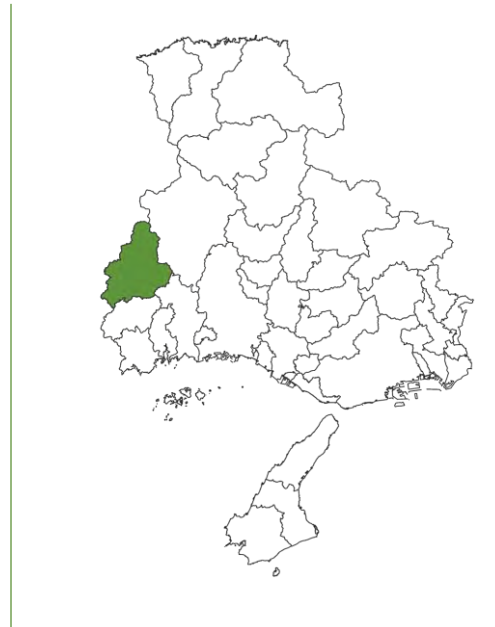
佐用町

■ 国内分布

本州、四国、九州

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊		特殊生育環境		特殊な分布	
観賞用等採取		特異な生態		分布の限界	
				希少	○



■ 特記事項

以前記録のあった佐用町では、生育を確認したが、2009年の水害で生育地が崩壊したため、現状不明。2018年の調査でも確認できず。



写真提供：今川邦彦

■ 保護上の留意点

—

■ 種の概要

匍匐枝は長さ10cm前後、褐色の仮根を密につけ、不規則に分枝して2cmほどの短い直立茎を出す。匍匐茎の葉は扁平に並び、円形から広楕円形で長さ5-8mm、先端は円頭、ときに微凸頭、乾くと巻縮する。葉縁には先端近くを除き2細胞列の舷があるが、全縁。中肋は葉先よりかなり下で消える。葉身細胞は大きな六角形、平滑、厚壁でくびれがある。雌雄同株(同苞)か異株。生殖器官は直立茎の頂端に生じる。雌苞葉は短いへら形で鞘状にならない。蒴は長卵形で、苞葉からあまり出ない。外蒴歯は白色、内蒴歯は退化している。孢子は大型。帽は細長い僧帽状で無毛。樹幹上、ときに岩上に生える。